

第2期 岡山市教育大綱

令和3年度～令和7年度



令和3年3月

12回にわたる総合教育会議での議論を踏まえ、『樹人』明日の世界に雄飛する人を樹うる」を我々がめざす教育とし、喫緊の課題である「学力の向上」と「問題行動等の防止及び解決」の2つに目標を絞り、その達成をめざすとした第1期大綱を策定したのは平成29年2月のことでした。

当時は、子どもたちの学力や問題行動等の状況が全国平均に比べて低迷しているにもかかわらず、明確なアクションを起こせていない教育の実状に、このままでは、子どもたちは自分たちの人生というドラマのシナリオをより良く描き上げることができないのではないか、そういう危機感がありました。

あれから4年、教育委員会を先頭に岡山市として第1期大綱の2つの目標に真摯に取り組んだ結果、全国平均レベルの学力が付き、考える力の基礎となるものが築けたといった成果や、学校教育や学校風土の変革についての確かな手ごたえが得られました。私自身も、岡山市の教育に新しい風を吹き込むという首長としての責務を担えたと感じています。

そして、今求められているものは何なのか、我々は何をなすべきなのか、それを見極め、次のステップに進まなければなりません。

時代は激しく動いています。

グローバル化、I o T (Internet of Things) やA I (人工知能) などの急速な技術革新、多様な人材を活かすための働き方や雇用制度の見直しなど社会環境が大きく変化している中、コロナ禍に伴う新しい生活様式への転換も重なり、数年前には予想だにできなかった状況が続いています。今後、社会がどう変わっていくのか誰にも見通せず、将来、子どもたちは今はまだ存在しない職業に就くことになるかもしれません。そんな予測が困難な未来に送り出すことになる子どもたちのために、我々ができる限りのことをしなければならぬという思いを抱いて、総合教育会議の場で協議を重ねてまいりました。

『樹人』という大きな柱のもと、めざす子どもの姿を定め、どんな未来がきても前向きに立ち向かい、自らの人生を切り拓ける子どもたちを育てていく、我々の決意を明らかにしたのが本大綱です。

子どもたち一人ひとりが自分らしさを大切に、そして研鑽し、自分なりのやり方でチャレンジし続けて、人生のシナリオをより良いものに描けられるよう、施策の推進に全力で取り組んでまいります。

岡山市がめざす教育

『樹人』明日の世界に雄飛する人を樹うる

郷土の先人・犬養木堂は、「教育は国家百年の大計」という表現のもととなった、中国春秋時代の管子の言葉「終身の計は人を樹うるに如くは莫し」を引いて、『樹人』という書を遺されました。

まちづくりは人づくり、人づくりはまちづくりです。百年先を見据え、教育を通じて、未来の郷土、ひいては世界の発展の基礎を築いていくことが岡山市の使命であり、先人の教えを胸に刻み、社会全体「オール岡山市」で人づくりに力を注ぎます。

岡山市がめざす子どもの姿

自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども

○今、求められているもの

第1期大綱策定当時、「学力」の面では、平成28年度全国学力・学習状況調査の結果で、岡山市の正答率を都道府県の順位に当てはめてみると、特に中学校においては40位台で、最下位となる教科も見られたこと、また、「問題行動等」の面でも、平成27年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果で、中学校における暴力行為は全国平均の約2倍、小学校での不登校出現率も全国平均を上回る状況が見られたことから、教育委員会や学校はもとより岡山市の取組が十分ではなかったと言わざるを得ず、その強い危機感から「学力の向上」と「問題行動等の防止及び解決」に4年間、集中的に取り組むこととしました。

その結果、「学力」については、令和元年度全国学力・学習状況調査の結果で小学校の国語・算数、中学校の国語・数学ともに偏差値50以上を実現し、子どもたちの考える力の基礎を築けたと言える状況となりました。この4年間、教育委員会は、全ての学校を訪問して校長をはじめ教職員と授業改善について協議するとともに、学校では、教職員同士が授業について協議することが増えました。その結果、授業改善が進み、子どもたちが、授業が分かる・楽しいことを実感し、学習に対する意欲が高まるとともに、課題に粘り強く向き合うようになり、偏差値50以上の実現につながったと考えています。また、「問題行動等」については、「しっかりほめて、適切に叱る」ことが浸透し、教職員が子どもたちと向き合うことが、子どもたちの安心感につながるとともに、各学校において組織的に対応する体制づくりなどが進みました。しかしながら、令和元年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査によれば、暴力行為の発生件数は、小学校で全国平均と同じような増加傾向が見られ、中学校では全国平均の約2倍で推移、不登校は、小学校・中学校合わせた出現率が全国平均よりも緩やかな増加にとどまっているものの、依然として新規不登校児童生徒の増加が続いています。

この現状を踏まえ、今、岡山市の学校教育において注力すべきことについて、総合教育会議で協議を重ねた結果、現在、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や情報技術の革新が大きく進む中、社会構造や雇用環境が急激に変化しており、将来予測が困難になっていることから、今の取組を継続しつつ、どのような社会になっても子どもたちがより良く生きていけるための必要な力に特に目を向けて、育んでいくことが必要だと判断しました。

なお、これからの時代に必要な人材について次のとおり整理しました。

- ・必要な情報を主体的に収集・判断し、目的のために役立てることができる。
- ・想定できない困難に対しても、あきらめずに乗り越えようとするすることができる。
- ・多様な人々と協力して自分の良さを発揮できる。

○岡山市がめざす子どもの姿

前述の人材像をもとに岡山市がめざす子どもの姿として「**自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども**」を掲げ、今、育むべき力を「活用力」「表現力」「向上心」「社会性」「人権尊重の精神」の5つとします。そして、この5つの力を育むための基礎となる目標として「全国平均レベル以上の学力」と「新規不登校児童生徒の減少」を設け、令和3年度から令和7年度までの5年間、取り組んでいきます。

施策の方針

1. 第1期大綱の検証と成果

第1期大綱のもと、学校と教育委員会が中心となり具体的な取組を進めたことで、教職員を含む教育委員会組織全体の意識が高まり、全ての学校で学力の向上や問題行動等の解決に向けた取組が進みました。そして、分かりやすい授業、認め合い、学び合う授業を進めることで、子どもたちの学校生活への安心感や意欲が高まりました。

○学力の向上

第1期大綱の目標値

■全国学力・学習状況調査の偏差値が、小学校 51、中学校 50 となることをめざす。

第1期大綱にもとづく取組の方針

児童生徒の学力をつけるために、授業を変える。

取組による結果

全国学力・学習状況調査や岡山市の独自調査の結果をもとに、教育委員会と学校が授業について協議する機会が増えた。

〔全国学力・学習状況調査の結果を活用した授業改善 100%〕

教員が、自分の授業について積極的に校長等に指導助言を求める姿が増えた。

〔校長による週2回以上の授業参観と授業の良さや課題等への助言 100%〕

教職員がより良い授業づくりについて、日常的に会話する姿が増えた。

〔授業に役立つ研修の実施 100%〕

総括（成果）

- ・基礎的な知識を身につけ、それをもとに「考えることができる子ども」が育ってきた。
- ・全国平均レベルの学力の達成

○全国学力・学習状況調査の偏差値

年度	H28	H29	H30	R1
小・国語	50	51	50	51
小・算数	50	50	50	50
中・国語	48	49	49	50
中・数学	48	49	49	50
中・英語	-	-	-	49

※H28～H30の偏差値については、B問題
（主として「活用」に関する問題）の結果
※英語はR1のみ実施
※偏差値…50が平均値

○全国学力・学習状況調査の無解答率の対全国比

年度	H28	H29	H30	R1
小・国語	1.1	1.0	0.9	1.0
小・算数	1.1	1.0	0.9	1.0
中・国語	1.7	1.4	1.5	1.4
中・数学	1.3	1.1	1.2	1.2

※対全国比…（岡山市平均） / （全国平均）
※無解答…記述式の問題で解答欄が空白で提出されたもの

○問題行動等の防止及び解決

第1期大綱の目標値

- 中学校の生徒1,000人当たりの暴力行為の発生件数が、平成27年度の全国平均（9.5件）以下となることをめざす。
- 小学校の不登校の出現率が、平成27年度の全国平均（0.42）以下となることをめざす。

第1期大綱にもとづく取組の方針

児童生徒の問題行動等を防ぐために、毅然とした態度で指導する。

取組による結果

問題行動等の防止に向けた各学校の方針が明確になり、家庭・学校・地域が協働した取組が進んだ。

〔問題行動等の防止に関する方針の策定と保護者等への説明 100%〕

教職員が、問題行動等に対する具体的な協議をする機会が増えた。

〔年3回以上の研修会等の実施 100%〕

児童生徒が、自分の気持ちを考えたり、守るべきルール等に基づいたりすることのできる機会が増えた。

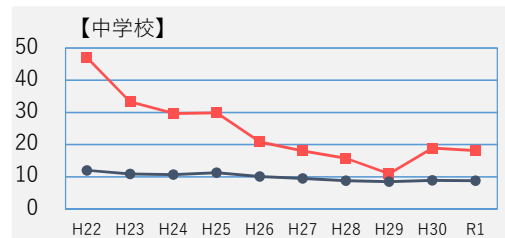
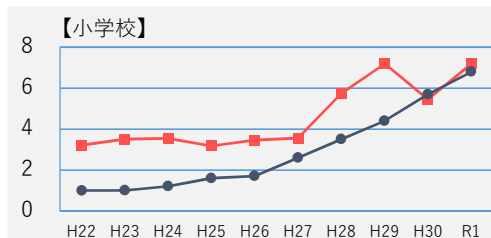
〔善悪の判断や思いやりの気持ちを学ぶ道徳授業や、警察と協働での非行防止教室等の実施 100%〕

総括（成果）

- ・問題行動等の未然防止や早期解決に向けて、教職員が一人で抱え込むことなく、学校全体での取組が進んできた。
- ・小学校・中学校合わせた不登校の出現率は、全国平均に比べ緩やかな増加にとどまる。

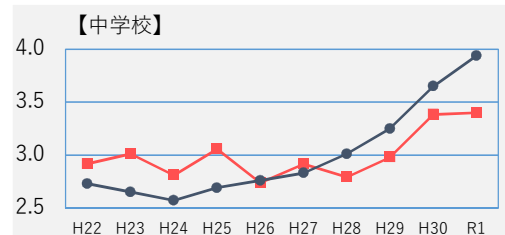
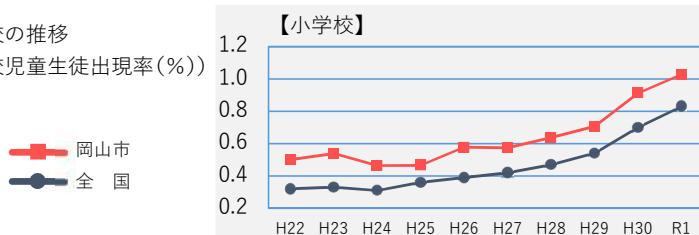
○暴力行為の推移

（児童生徒1,000人当たりの発生件数）



○不登校の推移

（不登校児童生徒出現率(%)）



2. 課題と取組

一定の成果があった一方で、記述式問題の正答率の改善が不十分であったり、英語力が全国レベルに達していない、新たな不登校児童生徒の増加と長期化という子どもたちに関する課題があるほか、教職員についても情報技術の活用能力の研鑽や若手の人材育成を早急に行わなければなりません。これまでの成果につながった取組を継続するとともに、授業改善や学校生活全般を通して未解決の課題や社会の変化による新たな課題への取組を進めていきます。

また、予測困難なこれからの時代を生きる子どもたちが必要とする力を育むために、岡山市がめざす子どもの姿が何なのかを明確にする必要があります。

○課題

【児童生徒に関する課題】

- 記述式問題の正答率の改善が不十分
 - ・身についた知識を関連づけて答えを導き出す力が弱い。
 - ・考えの理由を明確にして説明する力が弱い。
- 英語力が全国平均レベルに達していない
- 新たな不登校児童生徒の増加と長期化

【環境の変化等からの課題】

- 急激で予測が困難な社会の変化
- グローバル化や情報化の急速な進展
- 教職員の年齢層の偏り

○これまでの取組で継続していくもの

- 教育長を中心とした教育委員会の学校訪問による学校運営・授業改善への指導助言（学期1回以上）
- 教育委員会と校長会等との学力や問題行動等についての定期的な情報交換
- 校長を中心とした校内の授業参観・指導助言（週2回以上）
- 各学校での学力調査等の結果を効果的に活用した授業
- 各学校での研修会や個々の状況をもとにしたケース会議の実施（年3回以上）
- 各学校での家庭訪問（欠席連続3日）や、計画的な支援（不登校が理由の年間欠席10日以上）による組織的・個別的な取組の充実

○新たに取り組んでいくもの（不十分だった視点・新たな課題の視点）

- 学校は、児童生徒が議論し合う活動や探究する活動を取り入れた授業づくりについて協議を進める。
- 教育委員会は、教員が授業の中で効果的にICTを活用できるよう、デジタル教科書の導入やICT活用事例の作成、研修を行う。
- 教育委員会は、若手教職員が指導方法を直接学ぶ研修等の充実を図る。
- 教育委員会は、関係機関と連携して、不登校の取組強化に向けた学校への指導助言や支援の充実を図る。

3. 「めざす子どもの姿」と「5つの力」

今後、社会がどのように変化するのか分からない状況のなか、子どもたち一人ひとりがそれぞれの立場で社会に貢献し、自他の幸せを創造できるようになるために、教育委員会、学校、教職員がめざす子どもの姿のイメージを共有して取組を進めるとともに、関係部局が連携しながら、これからの時代を生きる力を育んでいきます。

○岡山市がめざす子どもの姿

自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども

○育む5つの力（めざす子どもの姿に必要な力）と育む力を測る指標

育む5つの力	指 標
活用力 情報を収集して、解釈したり活用したりする力	○自分の考えを整理して伝えることができる児童生徒の増加 全国学力・学習状況調査の記述式問題の正答率の対全国比（岡山市の正答率/全国の正答率）を1以上にする。
表現力 自分の思っていることや考えたことを、他者に分かりやすく伝える力	○情報を収集し、考えをまとめて発表している児童生徒の増加 探究的な学習をしていると感じる児童生徒の割合を全国平均レベル以上にする。
向上心 何事に対しても、粘り強く取り組み、乗り越える力	○協力しようとする児童生徒の増加 協力して取り組んだことがうれしいと感じる児童生徒の割合を基準値(R1)から5ポイント以上上昇させる。 基準値（岡山市R1）小学校 89.5% 中学校 83.9% ※全国学力・学習状況調査（文部科学省）
社会性 立場や意見が違う相手とも協力し、より良いものにしようとする力	○人を大切にできる児童生徒の増加 人が困っているときに進んで助けると考える児童生徒の割合を基準値(R1)から5ポイント以上上昇させる。 基準値（R1）小学校 86.6% 中学校 84.6% ※岡山市教育に関する総合調査
人権尊重の精神 命を大切に、自他の人権を尊重し、お互いの個性を認め合う心、他人を思いやる心	

なお、必要があれば、各学校でその特色に応じた定量的な指標を追加設定し、取り組むものとします。

○5つの力の基礎としての2つの目標

全国平均レベル以上の学力 全国学力・学習状況調査の偏差値 50 以上（英語を含む）	新規不登校児童生徒の減少 新規不登校児童生徒（小・中合計）の出現率 0.47%以下
---	---

※児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（文部科学省）

※参考数値 岡山市 H30 0.74%

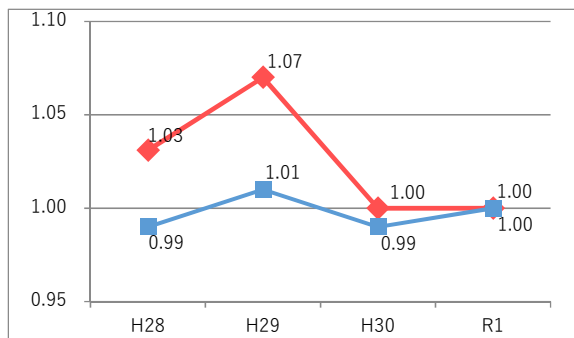
※目 標 値 H30 年度における新規不登校の児童生徒数から不登校を未然に防ぐことができたと考えられる人数を差し引いた数の全児童生徒数に対する割合

施策の実現に向けて

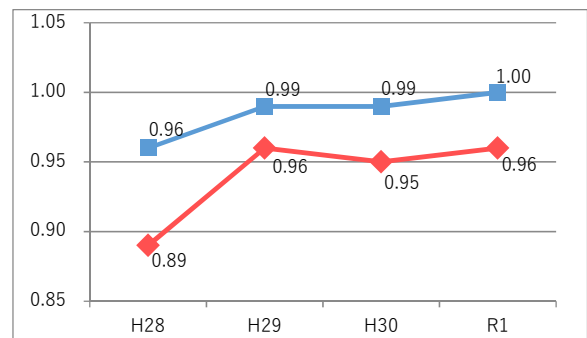
市長は、教育委員会に、教育長を先頭に強いリーダーシップを発揮し、本大綱に掲げる施策に取り組むことを求めます。また、教育委員会及び学校の取組状況について毎年度報告を求め、総合教育会議において検証・協議します。なお、中間的には、この協議の状況を鑑みて修正も考えていきます。

参考資料

○全国学力・学習状況調査の正答率の対全国比
【小学校の国語と算数を平均した値】



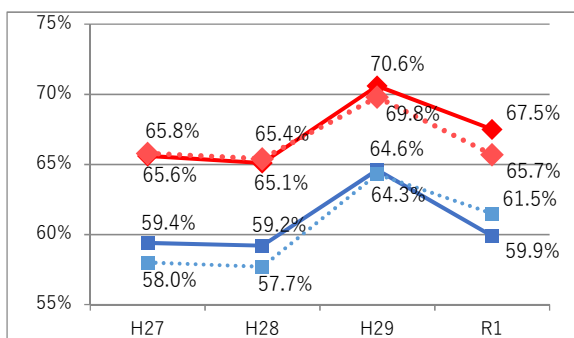
【中学校の国語と数学を平均した値】



※対全国比：(岡山市平均) / (全国平均)

◆ 記述式の問題
■ 記述式以外の問題

○探究的な学習をしていると感じる児童生徒の割合

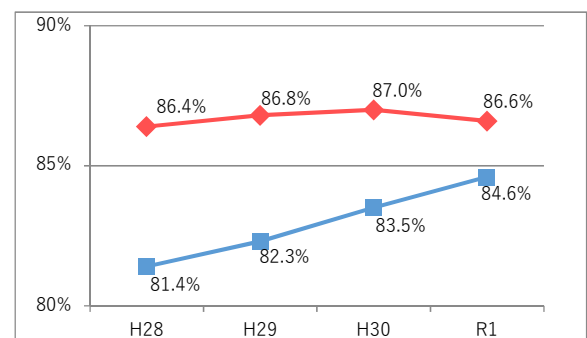


資料：全国学力・学習状況調査（文部科学省）

※H30は調査項目なし

◆ 小・岡山市 ◆ 小・全国
■ 中・岡山市 ■ 中・全国

○人が困っているときに進んで助ける児童生徒の割合



資料：岡山市教育に関する総合調査

◆ 小学校
■ 中学校